

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島南中等教育学校

52

評価実施日		平成30年3月7日(水)	
委員	氏名	所属等	備考
	佐々木淳夫	宇和島市立明倫小学校長	
	廣澤 磯野	宇和島市人権擁護委員	
	堀川征一郎	学校評議員(尾串保育園理事長)	
	西田 昭広	J R宇和島駅長	
	兵頭 朗生	P T A顧問	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の評価等について</p> <p>(1) 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none">・先生方の努力には頭が下がる。中高一貫教育の推進について、教職員と生徒・保護者の評価を比較すると、後者の評価の方が高い。よい傾向と考える。今後とも先生方の一層の努力を望む。・外で挨拶のできる生徒が少ない。挨拶の習慣を身に付けることにより、人権意識の高揚、心身の健康につながる上に、学校のイメージアップにもつながる。・学校行事への参加を促す取組に工夫が見られ、P T Aとの協力体制ができています。 <p>(2) 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none">・宿題を出さないと勉強しないという意識・意欲の欠如が問題である。・保護者から見ると、もっと学習指導をしてほしいと思っている。・生徒を褒めながら、頑張らせる努力が必要である。成績の向上につながる勉強のこつを生徒に見つけさせることに尽きる。・中学と高校の学習内容には、理論的思考の過程にかなり差がある。特に理数科目は勤が良いだけでは高校の問題は解けない。・中高一貫教育の良さを生かして、6年間という時間をどう使うか、検討が必要である。 <p>(3) 生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒指導の充実の項目の中で、教職員の評価平均が下がっている原因が検証できているか。生徒と教職員の認識の違いがあるのではないか。 <p>(4) 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none">・学習時間の減少については、課題に頼るべきではなく、自主学習の意識を持たせることが大切である。	<ul style="list-style-type: none">・1・2年、3・4年及び5・6年生の各ステージの教育内容、指導方法及びその連携の望ましい在り方について今後も研究を深め、中高一貫教育を一層推進する。・全生徒・教職員が自ら率先して挨拶を行う雰囲気作りを行うとともに、生徒会を中心とした生徒主体による「あいさつ運動」が開始されたので、その活動の支援を通して、校内外で気持ちのよい挨拶のできる生徒の育成に努める。・保護者との連携強化に努め、参加しやすい行事にするための工夫を更に検討していく。・最初は、多少負荷がかかる程度の宿題を出すことにより、学習習慣を確立していく。・各教科の授業の中で、学習方法についてのより具体的な説明を行うとともに、生徒の自主的な学習態度を養う。・理数科目を勉強していくことにはかなりの苦勞を伴うが、高校生の時期に学習の基盤を確立していくことの大切さを働きかける。・教科会を充実させて、情報交換を密に行うとともに、6年間を見通した学習指導計画を見直し、教科指導力の強化を図る。・前期生の問題行動が増加し、特定の期間に発生事案が集中したことで、教職員の自己評価が低下したと思われる。担当部や学年団等の複数で対応しているが、より連携を密にして、今後も丁寧に対処できるよう取り組む。・学習時間については、学年会や教科会の議題とし、課題の見直しについて取り組んでいるところであり、今まで以上に進路に対する目標を早めに持たせ、自主学習につながるよう意識させる。

<p>(5) 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・暴力など、全教職員が見逃さないという意識を強く持ち、防止・対応に努めてほしい。 <p>(6) 健康・安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練（文京地区）等での近隣校同士の連携協力をお願いしたい。 ・自転車のマナーアップについて、やはりマナー違反は一部の生徒によるものと思う。毎日継続していくことが必要と思う。独自にマナーアップ5則などを作り、ホームルームなどで暗唱するなどして、個々の意識を高めることを考えてはどうか。 <p>(7) 図書・視聴覚・情報教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育はどの程度進んでいるか。 ・宇和島東高校が申し出て明倫小学校に出前授業を行っているように、どの学校も活動を工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートによる実態把握・生徒が相談しやすい体制・日常の生徒の様子を観察を行い、これまで以上にきめ細かい対応をしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施予定で延期になった文京地区5校1園合同の訓練を、来年度の6月に実施予定である。 ・生徒総会でも交通マナーに関して、生徒の意識改革しか方法はないと生徒から意見が出た。ホームルーム活動などを利用して、意識を変える指導方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期（SGH事業で単位数は減）ともにプログラミング教育を行っており、それぞれのプログラミング言語を用いて指導している。 ・本校においても、うわじま子ども観光大使基礎講座の講師を本校生徒が務め、小学生に宇和島の文化を伝える授業を行ったり、「園児・小学生とつくる牛鬼プロジェクト」事業で番城小学校の児童と一緒に絵を描き、絵柄のある牛鬼を作製したりする事業に取り組んでいる。
<p>2 説明・公表等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価の結果を、PTA総会で説明したり、学校ホームページへの掲載により公開したりすることを、今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、学校ホームページをCMSにより作成したり、チーム編成をして1週間交代で記事の発信をしたりした。ホームページへのアクセス数を増加させることや、PTA総会での丁寧な説明を通して、さらに周知を図っていく。
<p>3 学校運営への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇和島市や西予市等から松山地区へ進学する生徒もいる中で、入学志願者を増やすためには、南校の良さをさらにアピールするとともに、学校の特色を出して生徒を獲得しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南予地域における中高一貫校としての役割を果たし、生徒や保護者、地域住民の期待に応え得る教育活動に一層努めるとともに、SGHの取組を通して育成している諸能力のさらなる伸長に努めたい。また、本校の「良さ」や特色を、より多くの小学生やその保護者に知ってもらうため、広報の内容や方法について、新たな取組を実施したり改善を図ったりすることとしている。